

平成24年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	小丸川漁種放流事業			基本目標	活力ある水産業の振興		
担当課(局)・係	産業振興課	農林畜産係	記入者	吉田 竜人	評価者	田中 義基	開始年度 年度

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	小丸川										
	意図・目的	アユ(稚魚)・ウナギ(稚魚)を放流することによって、小丸川に生育する魚類の生息数の回復を図るとともに環境保護に資する。										
事業の内容	小丸川流域において、アユ(稚魚)ウナギ(稚魚)の放流を委託する。											
23年度決算額		300	千円	24年度予算額		300	千円	事業従事者数	H23 0.20	人	H24 0.20	人
主な支出項目	委託料	300	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	23年度人件費	1,427			千円
			千円		県支出金		千円	24年度人件費	1,429			千円
			千円		地方債		千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)		100.0	%	
			千円		一般財源	300	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください				
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名		-							
	補助交付団体		-		補助金要綱		-					
	23年度	補助額	-	千円	補助の形態	-	H24年度補助額	-	千円	終期	-	年度
		団体の決算額	-	千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
		補助の割合	-	%								
	繰越額	-	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか	
	1 水質(DO数値)数値以上	放流を実施することで、環境保護のために資することができる。	
	2 水質(BOD数値)数値未満	同上	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に	
	1 放流量(アユ)	アユ2回(4月)放流量の確認。	
	2 放流量(ウナギ)	ウナギ1回(4月)放流量の確認。	
	3		

◎達成状況

指標名		単位	22年度	23年度	24年度
成果指標	水質(DO数値)数値以上	目標値	5	5	5
		実績値	5	5	
		達成率	100.0%	100.0%	
	水質(BOD数値)数値未満	目標値	3	3	3
		実績値	3	3	
		達成率	100.0%	100.0%	
活動指標	放流量(アユ)	目標値	67	40	68
		実績値	67	40	
		達成率	100.0%	100.0%	
	放流量(ウナギ)	目標値	0	34	0
		実績値	0	34	
		達成率		100.0%	
		目標値			
		実績値			
		達成率	%		

事務事業名	小丸川漁種放流事業	担当課(局)	産業振興課
-------	-----------	--------	-------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数
			自己評価
(必要性)	小丸川漁業協同組合も本事業と併せて同量以上の自主放流を実施することで受益者による費用負担も行われており、事業目的からみても町が行う事業として適切と判断できる。事業を廃止した場合、アユ、ウナギの増殖はまず見込めず、貴重な水産資源の減少が懸念される。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2
		◎事業廃止による影響があるのか	2
有効性	放流成果について、具体的な数値は把握できていない。特にアユについては生育環境がその年の気象情况等に影響を受けやすく一概には言えないが、実際に漁を行い状況を把握している組合の意見では、アユ及びウナギの増殖を確認している。	◎目標に対して成果は得られているか	2
		◎すでに目的は達成されていないか	2
効率性	増殖を目的とするならば、現行以上の放流数量が望ましいが、予算の範囲内での放流数量に留めており、これ以上の削減は困難。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2
		◎費用対効果が十分に認められるか	1
協働性	特になし	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	0
合計(最高18点)			15

※町補助をしている場合のみ記入

(公平性)		◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	
		◎町民の理解が得られる事業であるか	
合計(最高4点)			0
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	今後の方向性	今後の方向性			
			拡充	維持	縮小	廃止
	小丸川に生息する魚類の生息数回復のために必要な事業と考える。	事業の方向性				○
		廃止	縮小	維持	拡充	
			コスト			

◎事務事業評価委員の意見等

・事業の効果と、今後の考え方を整理していく必要がある。	◎今後の方向性	
	事務事業評価委員会	
	判定	維持
	外部評価委員会	
	判定	